

私たちのミライへ!

ミライの災害への備え



橋杭岩にある「津波石」から、カコの巨大地震や大津波を学ぶ

南紀熊野の地面の下では、プレートの大きな力がはたらいています。

そのため、巨大地震が起こりやすく、これまで何度も大きな被害を受けてきました。

80年以上前の昭和東南海地震(1944年)や昭和南海地震(1946年)では、津波が押し寄せ、建物などが流されました。

また、南紀熊野は山がけわしく川が短いため、雨がたくさん降ると、土砂くずれや洪水が起こりやすい地域です。十津川大水害(1899年)や紀伊半島大水害(2011年)では、土砂が家のみこみました。

南海トラフ地震や、大雨などの災害は、いつ起きるかわかりません。だからこそ、カコの災害から学び、ふだんからそなえておくことが大切です。

みんなの地球のミライ

南紀熊野の海では、黒潮の影響で、南の海のようなサンゴやカラフルな魚を見ることができます。

しかし、気候が大きく変わると、海水温が上がったり、自然のバランスがくずれたりして、こうした生き物たちがくらしにくくなる心配があります。

ジオパークでは、地域の大切なものを守り、ミライへつないでいく活動をしています。

これは、SDGs(持続可能な開発目標)にもつながっています。

わたしたちにもできることがあります。たとえば、海や川にごみをすてない、物を大切に使う、節電をする、自然や生き物を観察して学ぶなど、小さな行動の積み重ねが、南紀熊野の自然や地球を守る力になります。



海洋ゴミから、ミライの海と私たちのくらしのつながりを考える

ジオパークガイドさんに聞いてみよう!

南紀熊野の大地や自然のことをもっと知りたくなったり、活動に参加してみたくなったら、南紀熊野ジオパークセンターへ行ってみましょう。ここでは、ガイドのみなさんが南紀熊野の大地の成り立ちを詳しく教えてくれたり、活動への参加のしかたを教えてください。



発行:南紀熊野ジオパーク推進協議会 @<https://nankikumanogeo.jp/>
〒649-3502 和歌山県東牟婁郡串本町潮岬2838-3(南紀熊野ジオパークセンター内)
TEL:0735-67-7100/FAX:0735-67-7191



46億年の地球の歴史

南紀熊野ジオパーク 大地の物語を見に行こう



地球から学ぶ
カコ・イマ・ミライ

46億年というとても長い地球の時間の中で、火山が噴火したり、地面が動いたり、海や川にけずられたりして、今の大地がつくられてきました。そうした地球の歴史は、大地の記録として残っています。

ジオパークは、こうした大地の記録を大切に守りながら、海・山・川の自然と、人びとのくらしや文化をあわせて学べる地域です。

南紀熊野ジオパークでは、大地のしくみや成り立ちを通して、この地域のすこさやおもしろさを伝えています。

南紀熊野ジオパーク推進協議会

イマを見に行こう!

イマの景色は、カコからの贈り物 変わり続ける大地にふれよう！



激しい火山活動の時代にできた大地
(1,500 万年前～1,400 万年前)

浅い海の時代にできた大地
(1,800 万年前～1,500 万年前)

深い海の時代にできた大地
(7,000 万年前～2,000 万年前)

南紀熊野の大地

南紀熊野は、海の底や火山などでできた3つの大地が重なっています。ここでは地面の下で今もプレートが動いていて、大地がつくられ続けています。

イマも変わり続ける、南紀熊野ジオパークを代表するサイトを見てみましょう！

海の底でできた岩と、火山でできた岩とでどんな違いがあるか調べてみよう！

南紀熊野の歴史・文化

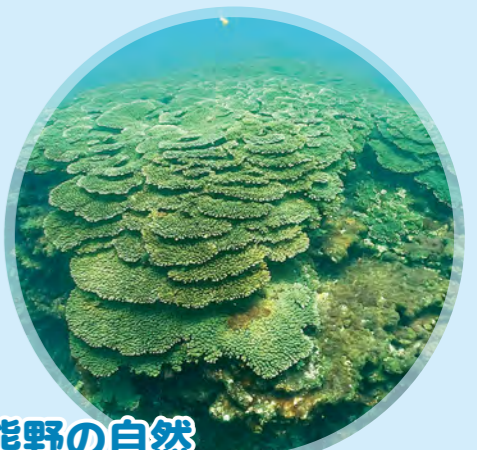
南紀熊野では、昔から大きな岩や木、滝などの自然を大切にしてきました。

こうした自然への思いから、南紀熊野では信仰がさかんになりました。そして、神社やお寺におまいりをするために、多くの人がこの地にやってきました（熊野詣）。



那智大滝 なちおおたき

那智大滝は、高さ133mもある大きな滝です。火山でできたかたい岩（火成岩）と、海の底でできたやわらかい岩（堆積岩）がとなり合う場所で、水の力でやわらかい岩が先にけずられました。その結果、地面に段差ができ、今のような大きな滝になったのです。



南紀熊野の自然

南紀熊野では、太平洋から運ばれてきた水蒸気がけわしい山にぶつかり、雨が多く降ります。時に災害につながることもありますが、南紀熊野の森や川、海の豊かさは、こうした大地と気候によって支えられています。

この雨は豊かな森を育て、山で育った水は川から海へ流れ、海の生き物のくらしも支えています。



千畳敷 せんじょうじき

千畳敷は、岩が階段のように広がっています。この岩は、もともと、浅い海の底にたまった砂や泥でした。

地震などで少しずつ持ち上がり、波にけずられて、今の形になりました。

橋杭岩 はしぐいいわ

橋杭岩は、地下から上がってきたマグマが、地層のすき間に入りこんで岩になりました。

その後、まわりのやわらかい地層だけが波でけずられ、かたい岩だけが残って橋杭岩になったのです。



波打ち際の大きな岩が、なぜ「津波石」と呼ばれているか調べてみよう！

カコ

から学ぼう！

